

ねらい

物流を題材に、テクノロジーと人がそれぞれの良さをいかし合って共存する現代社会や、そこで働く人々の仕事に対する想いや身につけたスキルを知ることを通して、自分がこれから大切にしたいことについて考える。

時間	活動内容	備考
導入 10分	① 身近な「HaKoBu」に目を向ける ○あなたが最近購入したものは？ それが、あなたの手に届くまで、どのように運ばれてきたのだろう？ ・最近購入したものとそれが手に届くまでについてグループで話し合わせ、なるべく多く出させて、物流に関わる仕事についてイメージを膨らませる。 ・モノが届くということは、梱包や発送、販売などさまざまな人や仕事関わっていることを確認する。 ・自分が「運ぶ」立場なら、どうやってモノを運ぶかを考えさせる。 例：それぞれが最近購入したもの、お弁当、現金(100万円)、冷凍のカニなど ・運ぶものによって、運び方や運ぶ工夫が必要であることを確認する。	・店舗の場合、インターネットの場合など、購入手段をいくつか具体的に例示するとよい。 ・「大切に運んでほしい、運ぶのは難しそうだ」など自分事にして、次の内容『「HaKoBu」の舞台裏』への興味を高める。 ・導入で出たものや、生徒が興味をもつものを例示するとよい。
展開① 10分	② 「HaKoBu」の裏側を知る ○身近な「運ぶ」にはどんな工夫があるだろう？ ・サイト教材『「HaKoBu」の舞台裏』から、1～2例を取り上げ、運ぶ技術や工夫を紹介する。 例：「流水、どうやって運ぶ？」「サッカーチームの荷物、どうやって運ぶ？」など ・自由に閲覧させ、どのような気づきがあったか共有し、技術や工夫の重要性を確認する。	・技術は人々の経験や工夫から進化していることを伝えるとよい。 ・共有し、協働の重要性・必要性に気づかせるとよい。
展開② 20分	③ 「HaKoBu」の今をとらえる ○実際の「運ぶ」には、どのように「人」が関わっているのだろう？ ・「運ぶ」は、昔から変わらないのか問いかけ、方法や技術が進化していることを確認する。 ・現代社会で進化を続けている実際の「運ぶ」映像を視聴する。 映像教材：「HaKoBu」で届ける想い（約2分30秒） ・物流の現場では、DXによる作業の効率化、自動化が進む中、ロボットと人がそれぞれの役割をもち、良さをいかし合いながら協働している。現代社会における「人」だからその役割とは何か。 ・映像を見て気づいたこと、考えたことをワークシートに記入させる。 ・ロボットなどのテクノロジーと人間が良さをいかし合いながら、それぞれが得意なこと、それぞれにしかできない役割を担うことで、新しい社会をつくっていることを確認する。	・共有し、協働の重要性・必要性に気づかせるとよい。
まとめ 10分	④ 「HaKoBu」仕事から、自分の未来を考える ○「運ぶ」人とは、どんな人なのだろう？あなたの推し「HaKoBu」の達人は？ ・「運ぶ」に携わる仕事にはどのようなものがあるのか問いかけ、「運ぶ」人には、さまざまな役割があることを確認する。 ・サイト教材『「HaKoBu」の達人』を閲覧させ、自分が興味をもった「HaKoBu」の達人（推しの達人）を選ばせることで、「運ぶ」人の想いやスキルをとらえさせる。 また、「HaKoBu」の達人の仕事参考に、自分の未来について考えさせる。 ワーク ① 9枚のカードから気になる達人を2～3人選び、♥でチェックをつける。 ② カードの詳しい内容を読んで、「推しの達人」を一人決め、その理由を考える。 ▶選んだ「推し」とその理由についてグループで話し合わせ、仕事をしていくには、想いややりがい、スキルなどさまざまなものが大切であることに気づかせる。 ③ 達人カードを参考に、「自分が身につけたいと思うスキル」「仕事をするうえで大切にしたいこと」を考えさせる。 ・どの達人も、想いややりがいをもち、変化する社会の中でスキルを発揮しながら「人だからこそ役割」を果たしていたことを確認する。 ・達人を参考に自分の未来を考えたことをふりかえり、想いややりがいをもって仕事をする、社会の中で役割を発揮すること・そのためのスキルが大切であることを伝える。	・達人のカードの詳細を読み込むのは時間がかかるため、キャッチコピーなどから「気になる」ものに絞るとよい。 ・グループで「推し」と理由を共有させることで、自分が「推し」として選んだ以外の達人も参考にさせることができる。
まとめ 10分	⑤ ふりかえり ・本時の学習をふりかえり、自分なりに考えたことをワークシートに記入させる。	・各校の計画により観点を示して書かせるとよい。

！ 授業のポイント

① 身近な「HaKoBu」に目を向ける

手に入れて嬉しかったもの、お気に入りのものなど、想いが強いものを想起させることで、手元に届くまで「大切に届けてほしい」という購入者視点の気持ちに気づかせるとよい。

② 「HaKoBu」の裏側を知る



まず全体でマップを見せ、「どんな運ぶがある？」と投げかけ、身近な「運ぶ」に気づかせることとよい。

全体で1～2例取り上げ、「どうやって運ぶ？」など予想させてから、その工夫を紹介するなど、コンテンツの使い方を説明してから、自由に閲覧させるとよい。



③ 「HaKoBu」の今をとらえる

「テクノロジーの発展で、人間の仕事が奪われてしまう」というメッセージではなく、それぞれの得意なこと・良さをいかし合った協働が重要であり、「だからこそ人の役割」を考えることが必要であることを伝える。

プログラムサイトから再生してください。

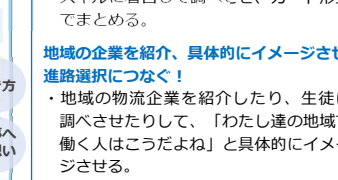
※教材ダウンロードページからも同じ映像が再生できます。

④ 「HaKoBu」仕事から、自分の未来を考える

達人は、職種やスキルの異なる9人(9種)。まず、キャッチコピーや印象から「気になる」ものを2～3人絞らせるとよい。

「すごいと感じたスキルは？」
「いいと思った働き方や仕事への想いは？」など投げかけ、推しを選ばせるとよい。

達人のスキルは、物流業界固有のものではなく、社会一般で求められるスキルを記載している。



⑤ ふりかえり

各校の授業計画に応じてご利用いただけるよう、ワークシートには、ふりかえり記述用の「枠」のみ準備しています。以下の発問を参考に、生徒に提示してください。

ふりかえりの発問例

- 自分の未来に向けて、大切にしたいと感じたことを書こう
- 授業を受ける前と後で、「HaKoBu」仕事について考えが変わったことは？
- 「HaKoBu」仕事について、初めて知ったこと、考えたことは？

【キャリア・生き方を考えさせる場合など】

【社会・仕事を考えさせる場合など】

プログラムサイト「What is HaKoBu」を使用します。
生徒の端末でアクセスできるように準備ください。
<https://www.mlit.go.jp/jidosha/hakobu/>



アレンジアイデア

他の仕事をネットリサーチ！

・物流やその他の業界の職種についてもスキルに着目して調べさせ、カード形式でまとめる。

地域の企業を紹介、具体的にイメージさせ進路選択につなぐ！

・地域の物流企業を紹介したり、生徒に調べさせたりして、「わたし達の地域で働く人はこうだね」と具体的にイメージさせる。